

家庭教育つうしん

令和6年7月発行第88号

発行責任者：士別市教育委員会社会教育課
課長 千葉 真奈美
(電話 26-7308)

メール：shakaikyouikuka@city.shibetsu.lg.jp
作成者：士別市家庭教育推進員 共同作成

家庭教育の重要性について

「家庭教育は、すべての教育の出発点」とです。子どもは、家庭で家族とふれあうなかで様々なことを学んでいきます。家庭教育によって子どもが身につける基本的な生活習慣やマナーなどは、社会で生きていくために必要不可欠なものです。そこで今回は、「家庭教育の重要性について」をテーマにして家庭教育推進員からの情報をお届けします。

「日常の家庭での生活を考える機会を」

「家庭教育はすべての教育の出発点」と言われる中、【令和5年報告の家庭教育についての保護者へのアンケート調査（文部科学省）】に目を通すと、「家庭教育」の言葉を聞いたことがあるが内容までは詳しく知らないという回答が全体の43%、また、38%の回答が全く知らない、聞いたことがないとのこと、多くの回答者が言葉に馴染みがあるものの、具体的内容の理解が浅いことが伺えました。皆さんはいかがでしょう？

○家族であいさつをする ○家族で食事をする ○家族で遊び、体験を楽しむ ○お手伝いや後片付けをさせる ○家族で日常の出来事を話す ○規則正しい生活をする ○食事のマナーを学ばせる ○公共の場にふさわしい立ち居振る舞いを教える ○自分で身だしなみを整えられる ○宿題を見守る、読書の時間を設ける…等々、ご家庭での過ごし方ひとつひとつが社会へとつながる親子の学びの時となることでしょう。

さて、家庭教育推進員は、保護者の皆さんが愛情と笑顔を持って子育てや家庭教育へと導かれることを心より願い、社会全体で支え合う家庭教育支援の取り組みを推進してまいります。今年度もどうぞ、よろしくお願いいたします。

(士別幼稚園園長：谷推進員)

「学校と家庭が協力して応援しましょう」

私たち教員は、毎日子どもたちの学びや成長をサポートしていますが、学校だけでは十分にカバーできない部分もたくさんあります。ここで大切になるのが、家庭教育です。

家庭は子どもたちにとって最初の学びの場です。親が本を読む姿を見せると、子どもたちも自然と読書に興味をもちます。家庭での会話を通じて、コミュニケーションの大切さを学ぶこともあります。こうした日常の中での学びは、学校での勉強と同じくらい重要です。

また、家庭は子どもたちの心の成長にも深く関わっています。親との信頼関係がしっかりしていると、子どもたちは安心して挑戦できます。失敗しても受け入れてもらえる環境があると、自信をもって成長できます。

さらに、家庭教育は子どもたちの将来にも影響を与えます。親が規則正しい生活を送る姿を見せることで、子どもたちもその習慣を身につけやすくなります。また、親が努力する姿を見せることで、子どもたちも努力の大切さを学びます。

家庭教育は毎日の生活の中で、子どもたちに愛情をもって接し、一緒に過ごす時間を大切にすることが基本です。小さなことでも、子どもたちにとっては大きな学びの機会となります。これからも、学校と家庭が協力して、子どもたちの成長をサポートしていきましょう。

(温根別小学校教頭：重森推進員)

「気づきのある子育てを」

家庭はすべての教育の出発点といわれます。これは、家庭が子どもの体験する初めての社会であり、家族のふれ合いを通して、基本的な生活習慣や生活能力など、子どもの健やかな育ちの基盤になるからです。

一方で、家庭教育を支える地域環境は大きく変化しています。子育てに関する情報は、昔に比べてたくさんありますが、だからといって子育てが楽になるかといえそうともいえません。情報過多であるからこそ、何を取捨選択すればよいの

か迷ってしまう。そんな中で「家庭」の重要性といわれると、プレッシャーに感じる方も少なからずいるのではないのでしょうか？

私自身も現在進行形で子育てをしています。つくづく「子育てって大変」「子育てには心配や悩みはつきもの」と実感しています。子どもの行動に対して「どうしてできないの?」「こうすればいいのに」と反射的に口に出してしまうこともありましたが、これは、「間違い指摘反射」といってカウンセリングでは、相談者に対して、してはいけないことの1つだそうです。分かっている、わが子となると心配や期待から、つい感情的に間違いを指摘してしまい、自分の一言で嫌な表情をするわが子を見て、はっと気づき、親としての不甲斐なさに落ち込むこともありました。

子育てで、何かにうまくいっていない時には、うまくいかないやり方をしていることに”気づく”ことが大切です。そしてうまくいかないやり方を手放すこと。うまくいっていないやり方をやめるだけでも、問題や悩みが解消されることは多くあります。余力があれば、うまくいくやり方を試してみる。「こんな考え方もあるんだ」「こんな方法もあるんだ」という”気づき”を大切にしたいですね。

(あさひ認定こども園所長：宮田推進員)

「家庭教育ってなんだろう…」

家庭教育は、すべての教育の出発点です。

子どもは、生まれた直後から家族とのふれあいを通して、基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやり、基本的倫理観、自尊心や自立心、社会的なマナーなどを身につけます。

家庭教育は人格を形成する上で重要な役割を果たしています。

家庭での過ごし方について少し考えてみましょう。いつも家族で「おはよう」、「ただいま」、「おやすみ」などの挨拶はしない。親が食事中や暇があれば、常にスマートフォンを見ている。好きな時間までゲームをして、就寝は午後11時は当たり前。これで、子どもが望ましい生活習慣を身につけられるでしょうか。

家庭は、子どもたちが最も身近に接する社会です。常に子どもの心のよりどころとなるものです。少し立ち止まって、日常の家庭での生活を振り返ってみませんか。

(中央公民館係長：工藤推進員)

「家庭教育についてのおすすめする本」



「ねえ だっこして」

金の星社 (2004.5) 竹下 文子 作 田中 清代 絵

お母さんのおひざの上の赤ちゃんを見つめる猫の姿をとおして、甘えたい気持ちや大好きな気持ちが優しく表現されています。世界一すてきなお母さんのおひざ、私もう大きいし、ひとりで遊べるから赤ちゃんに貸してあげる。でも、ときどき、少しでいいから抱っこして…と願う猫の思いは伝わるのでしょうか？絵本の最後のページ、余韻までたっぷり楽しみたい1冊です。



「子育てが楽しくなるちょっとした習慣」

PHP 研究所 (2007.9) 日本文教教育研究会子育て支援センター 著

子どもが健やかに成長するためには「親子の絆」が大切。そして絆を育むためには、「ことば」がとても重要です。公文式教室での50年の経験と研究をもとにした毎日の子育てを楽しむコツと、言葉かけとコミュニケーションのポイント、巻末にはおすすめの絵本リストも収録しています。家庭教育入門書にピッタリな生きる力を育むために大切な要素が分かりやすい内容でまとめられた1冊です。



「子どもはみんな問題児」

新潮社 (2015.3) 中川 李枝子 著

ぐりとぐら・いやいやえんの作者が、自らの保育士経験や創作活動をとおして感じた「子どもらしい子ども」の姿と、子どもの本質を柔らかな語り言葉で伝えています。どの子もみんなすばらしい問題児、焦らないでだいじょうぶ、という書き出しから始まるこの本は全編にわたって愛と優しさに溢れていて、悩む心を解きほぐし、笑顔をエネルギーに変えてくれます。子育て世代の心にそっと寄り添う1冊です。

これらの本のほかにも、関連する図書を貸し出ししています。ぜひ図書館へお越しください。

(市立士別図書館主任主事：安藤推進員)